

令和3年度県高P連

定期総会開催

6月4日、サンセール盛岡にて岩手県高等学校PTA連合会（以下県高P連）令和3年度定期総会が開催されました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により延期となっていた県高P連結成70周年記念式典が後に控えていたため、研究協議会は開催せず定期総会のみを執り行いました。また、未だ新型コロナウイルス感染症の終息が見えない状況であることに配慮し、受付での体温チェックやマスクの着用、会場の換気など、十分な対策を講じた上での開催となりました。

当日の出席者は、県内63校のPTA会長、副会長、校長、事務局長など187名。今年度の個人表彰は91名の方が受賞され、受賞者を代表して久慈高等学校PTA会長の貫牛利一氏が表彰状を受け取りました。また、令和2年度「岩手県高等学校PTA連合会第25回広報紙コンクール」において



▲岩手県高P連会長 清水成樹

は、花巻南高等学校の花南「みなみ風」135号が最優秀賞を受賞。令和2年度「優良PTA文部科学大臣表彰」は伊保内高等学校PTA、令和2年度「岩手県教育表彰」は遠野高等学校PTAがそれぞれ受賞しました。また、令和3年度「全国高P連会長表彰」は、団体表彰を盛岡商業高等学校PTAと花巻南高等学校PTAが、役員等個人表彰は岩手県高P連会長の清水成樹氏が推薦されました。表彰式に続き、来賓の岩手県高等学校長協会梅津久仁宏会長が祝辞を述べました。梅津氏はPTA会員に向け、日頃から高校教育の充実および発展のために県高P連や各校での取り組みに対する理解と支援について感謝の意を述べた後、来年度から実施となる高等学校の新学習指導要領や、本県における高校再編成計画、特別支援学校整備計画の策定などについて触れ、地域や地域産業の担い手を育

成するためにも、高等学校が持つ役割がますます重要になっていくと語りました。



▲議長 一関第一高校PTA会長

議事では、令和2年度会務報告や会計収支決算、令和3年度の役員選出、活動方針ならびに事業計画、会計収支予算、岩手県高P連結成70周年記念事業予算について事務局から提案がありました。また、令和4年度には第71回東北地区高P連盛岡大会が予定されていることから、大会の概要や日程、役員についても議案が提出されました。令和3年度の役員としては、盛岡第一高等学校の大柏良氏が会長に就任。そのほかの議案に関しても、原案どおり承認されました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、会議や研修会が相次いで延期、中止となったため、当初予算と決算とのずれが生じました。しかし、県高P連清水会長の「全ての催しを中止にするのではなく、万全の感染症対策を講じた上で開催する方法がないか積極的に模索する」という意向のもと、日程や時間の短縮を図るなど工夫を施しながら活発な活動をすることができました。清水会長は結成70周年記念式典の終了を持って退任。式典終了後には、大柏新会長から清水前会長へ感謝状が手渡されました。



▲開会前



▲来賓祝辞 県高校長協会会長



▲花巻南高校表彰



▲久慈高PTA会長表彰

がんばる岩手

岩手県立宮古水産高等学校PTA会長 馬場 愛美



未来に向けた 出航

本校の開校は明治28年(1895)10月15日であり、創立126年目を迎える日本で最も歴史のある水産高校です。海の仕組み・船の操縦・魚の生態・水産加工・流通を学ぶ海洋生産科と、食文化の創造と食の未来について学ぶ食物科の2学科があり、教育施設を最大限に利用して学んでいます。

問題が終息し、もとの行事ができるようになっていきます。今後、令和7年度の創立130周年記念行事や高校再編後期計画など宮古水産高校の大きな変革の時期になります。保護者と学校が連携を密にして、生徒の成長を第一に考え取り組んでいきます。そのためにも学校の教育環境の整備にも協力し、本校の発展・向上のためPTA活動を意欲的に行ってまいりますので、保護者の皆様や先生方の御協力をお願いします。

PTA活動は、コロナ感染症防止対策のために行えない状況が続いておりますが、例年は、実習船「海翔」による宮古湾クルーズや三陸鉄道貸切列車による交流会を行い親睦を図っております。また、水高祭協賛事業では、保護者と生徒会が合同で記念品を配布し生徒との交流も行っていきます。一日も早くコロナ感染症

ランスを確保しながら、授業や授業準備等に集中し、健康で生き生きとやりがいをもって子どもたち一人一人に向きあうことができる時間を確保していくことであり、このことが、岩手の未来を担う大切な子どもたちに、質の高い教育を持続的に提供することにつながります。こうした働き方改革を実現していくために、本プランとしては次の目標を掲げています。

り、創立126年目を迎える日本で最も歴史のある水産高校です。海の仕組み・船の操縦・魚の生態・水産加工・流通を学ぶ海洋生産科と、食文化の創造と食の未来について学ぶ食物科の2学科があり、教育施設を最大限に利用して学んでいます。



▲水高祭

岩手県教職員

働き方改革プラン

(2021~2023)

を策定

岩手県教育委員会では、学校全体の働き方改革の実現を目指して、「岩手県教職員働き方改革プラン(2021~2023)」を策定しました。

教職員の担っている業務量、長時間勤務の実態は未だ深刻な状態にあります。が、学校の働き方改革の目的は、単に教職員の時間外在校等時間を削減することではなく、教職員がワーク・ライフ・バ

目標1 教員の時間外在校等時間の縮減

- (1) 時間外在校等時間が月100時間以上の者を令和3年度からゼロにする。
- (2) 時間外在校等時間(週休日の部活動指導従事時間を除く)が月45時間超、年360時間超の者を段階

的に縮減する。

目標2 業務への充実感や、健康面での安心感の向上を目指す

目標達成のためには、「部活動関係団体、PTA、同窓会等の業務に係る役割分担」を進め、教員が担う業務の明確化・適正化を図っていくことや、「留守番電話等による時間外対応」など、地域や保護者の方々からのご理解・ご協力をいただきながら取組を進めていく必要があります。

詳細については、岩手県のホームページにおいて「岩手県教職員働き方改革プラン(2021~2023)」と検索してください。



高P連 新会長の抱負

岩手県高P連新会長 大柏 良

みなさま、初めまして。

少し自己紹介をします。私は、ちょっとした山の中に住んでおります。ゴミ収集所までは500m。砂利道を歩いていくと、小鳥のさえずりが実に気持ちいいのです。今朝、「今年はこの山ではカクコウが鳴かないな」と思いつながら歩いていたら、やっとうめき声を聞くことができました。朝8時になると、某高校の応援団の太鼓の音が響いてきて、春には近所の人しか知らない1本校が岩手山をバックに咲き誇る、自分としては自慢のロケーション(ただ、秋になると大発生して家の中に入り込んでくるカマドウマには閉口)。そんなお山に、妻と5人の子どもたちと暮らしています(ひとり大学で家を離れたので今は6人暮らしです)。一番上は女、下の4人は男。自分ができるなかった野球を、4人の男子たちが始め、週末は大忙し。だったのに、今年、高校に入学した次男坊はラグビーに転向したのがちよつと寂しくもあり、楽しみでもあり。長女は夏休みは帰省するのと気を採む。などなど、当たり前の小さな幸せを噛み締める毎日。

父は岩泉で生まれ、幼少期は大人と一緒に馬で切った木を運び出すというなかなかハードな人生を送ってきたようです(その後、小学校の先生になり、うるさい生徒には抜群のコントロールでチョークをビシッと)。母は、田野畑村出身。実家は漁師。春先は、朝になると岩ばかりの小さな島に父親が船でおろし、日暮れ近くまで海藻採り。両親のそんな思い出話は、別の世界の話を聞くようで、とても好みます。

でも、津波。母の実家はギリギリで助かったものの、叔母の家は流失。幼少期の心の拠り所だった場所(これを故郷と呼ぶのでしょうか。自分ではよくわかりません)は、すっかり姿を変えてしまったようです。「ようです」と伝言で書いたのは、直後の様子を見ていないからです。私は、テレビ番組を作っています。震災直後からは被災地で出会った方に、スケッチブックに今の思いを書いていただく番組も作っています。毎週被災した街々を訪ねてきましたが、2年間、田野畑には行く事ができませんでした。見るのが怖くて行く事ができませんでした。

ことほどさうに、自然の一撃は。もし、地球を覆う薄っぺらい皮のような地面が何かの力で弾けて仕舞えば、それでいい。空から降ってくる星のせいかもしれない。地球の内部で何か崩れ去るかもしれない。世界の脆さを感じてから、我が子たちに伝えたいけど、うまく伝えられない事があります。「だからこそ、毎日ジタバタ一杯生きるべ」ということ。薄い氷の上を生きているのを実感できたんだもの。ジタバタ生きよう。

何が大事か、やらなければならないことは何か、いつも迷っている52歳のオヤジであります。そんな人間ですが、子どもたちのためにできること、精一杯努めさせてもらいます。ぜひ皆さんのお話も聞かせてください。お力、お貸しください。

